

感染症流行期における看護師の報道から見る 「中国特色社会主義女性性」

——『人民日報』を例として——

劉 恒 宇

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）の蔓延により、全力で患者の対応にあたっている看護師に世界の人々から注目が集まっている。看護師をめぐる報道も毎日なされていて、これらの情報は人々の看護師に対する感謝と尊敬する気持ちを喚起する一方で、どのように医療従事者たちを守るべきか、看護師たちに対してどのように配慮したらいいのかといった問題も人々の関心を寄せている。時には、メディアの報道と受け手の見解の間に齟齬が生じ、ネットで大炎上することもある。今回の COVID-19 感染爆発期に関する看護師報道の中で、極めて騒々しい事件を引き起こしたのは、湖北省の支援に派遣する女性看護師たちが丸刈りにされたという報道であろう。この報道は甘粛省の国営メディアによって放送されたもので、動画の中で、感染者に関する対応の邪魔にならないようにするため、髪を剃られている女性看護師たちの姿が映っている。記事は「美髪を剃り、身支度して出征する彼女たち」というタイトルであり、女性看護師たちは、国に献身し、国のために女性性の顕著なシンボル——美髪を捨てた戦士たちのように描かれている。それと対照的に、涙を流している女性看護師たちの姿に対して違和感を覚え、同情的な気持ちを抱いている人が大勢いて、SNS では非難も殺到している。

中国のみならず、日本のメディアもこの事件に注目し、報道している。しかしながら、2003 年の新型肺炎 SARS ウイルス流行期の報道を見ると、女性看護師が断髪する行為もしばしば報道されていたが、今回のように大きな波紋を呼ばなかった。さらに遡ると、毛沢東時代の国産映画には、正義的な、ポジティブな女英雄は短髪であったり、革命への参加を契機に断髪したりする事例もたくさんある。柳（2012）また、徐峰（2014）によると、辛亥革命（1911 年）以降、女性の断髪ないし丸刈りは革命のシンボルと結びついて、革命事業への献身と自己解放を意味しているとのことである。昔はポジティブ的に捉えら

れている女性の断髪は、なぜ今回報道事件として大きな波紋を及ぼしているのか。本稿では、先行研究を踏まえながら、中国の代表的な国営メディア——『人民日報』における看護師のイメージに注目し、COVID-19 感染爆発期の報道における看護師をめぐる言説を比較しながら分析していく。なお、今回の報道の特徴を明確するために、新型肺炎 SARS ウイルス流行期の報道との比較の視点も導入する。感染症流行期における看護師に関する報道の分析を通して、中国の特色ある社会主義における社会が提示した理想的な看護師像、そして、それが中国社会の発展に伴う変化と不変、また、それがもたらした葛藤と問題を分析していく。中国で看護師という職業は、女性が九割以上を占める職業であり、報道の中で女性看護師に関する記事も大半を占めているため、今回の調査は男性看護師に対して少し触れ、主として女性看護師を分析対象とする。

2 先行研究の整理と本研究の位置づけ

2-1 国営メディアにおける女性像研究

国営メディアによって構築された女性像に関する研究は中華人民共和国女性史の軌跡を辿る手がかりとして重要であるとともに、女性学研究領域においては社会主義国としての中国の独自性も反映している。その理由としては、第一に、杜芳琴（2002: 31）が指摘したように「中国は、韓国、日本、インド、インドネシアなどのアジア国と比べ、政党の宗旨、国のイデオロギー、立法と政策が女性の政治、経済、家庭生活に与えた変化は一番著しい」とのことである。第二に、1949 年以来、中国は社会主義国家として男女平等を国策として促進してきたことである。それゆえ、国と女性の関係は中国の女性学研究において長い間注目されてきた課題であり、国営メディアにおける女性の表象を通して中国社会のジェンダー構造、ジェンダー規範に迫ろうとする研究は数多く存在する。たとえば、金一虹（2006）は中国の「文化大革命期」における「鉄姑娘」⁽¹⁾という女性像に対する分析を通して、それが中国の職業のジェンダー構造との関係について検討した。金（2006）は社会主義時代の中国の労働構造に生じたジェンダー役割の再構成に着目し、「鉄姑娘」という女性像の誕生、拡散、浸透の過程を推察し、「男女平等」のシンボルとしての「鉄姑娘」イメージの定着と、それを可能にした女性自身の欲求、計画経済体制下の労働政策の要請、政治動員の展開といった要素の複雑な相互作用を分析し、国が女性に与えた新しい社会役割が現

⁽¹⁾ 1960-70 年代に誕生した優れた女性労働者を称賛する独特なシンボル。鉄のような強い意志を持つ、男性に負けない女性労働者を意味する。

実の女性に与えた両義的な影響を検討した。

同様に模範女性に焦点を当てる研究としては高煥静（2014）による『人民日報』の「三八紅旗手」をめぐる報道に対する研究が挙げられる。高（2014）は1960年から2013年までの『人民日報』に掲載された「三八紅旗手」⁽²⁾の典型報道を中心に、通史的な視座から、主流メディアにおける模範女性⁽³⁾の変化を辿っている。高（2014）によれば、主流メディアにおける模範女性は時代性に富み、90年代以降の市場経済の発展に伴い、ますます多元化していく。そして、模範的な女性像は国家のイデオロギーを代弁する者から普通の民衆になりつつあり、段々「日常化」していく。外見的には男性化あるいは中性化から自然な女性に回帰する。その原因として、高（2014）は国の重心が政治から経済建設への転移と多元文化の影響と結論付けた。

姚霏・馬培（2015）はマルチモーダル談話分析という手法を使って、戦間期の宣伝画における女性の表象を分析した。姚・馬（2015）は国営メディアに限らず、抗日戦争期間に出版された幅広い宣伝画を網羅的に分析したが、国の要望に従う女性表象という特質は変わらなかった。姚・馬（2015）の研究は、それまで無視された戦争プロパガンダ・ポスターを女性像研究の俎上に載せたこととマルチモーダル談話分析の導入という点で先駆的であった一方で、女性像の呈示と中国社会にあるジェンダー構造の相互関係の説明は不十分である。姚・馬（2015）は宣伝画における女性像を「被害者」と「戦闘員」という二つの類型にカテゴリー化し、「被害者」としての女性像は女性の生理的な特徴を強調するのに対して、「戦闘員」としての女性像は女性の生理的な特徴を希薄にすると指摘した。しかし、同じ「戦闘員」であるとしても、看護師と女性兵士の表象は必ずしも一様ではない。にもかかわらず、それに対する具体的な分析は展開されなかった。同様に宣伝画を対象としているのが、新中国の宣伝画における女性民兵に対して、政治的図像学の視点からの研究である。王海洲（2016）は政治学を女性イメージ研究に導入し、網羅的な女性像ではなく、ある特定の女性集団——女性民兵に対する端的な分析を通して、男性とは異なる女性国民の創出を明らかにした点で評価できる。

張娜（2017）は2001年から2015年までの『人民日報』における女性をめぐる言説を分析し、それらに見られる女性による主体性の覚醒とジェンダー意識の変容を考察した。張（2017）は『人民日報』で描かれる女性たちに明確な主体性があり、経済面でも人格面でも独立していて、男性に頼らず、積極的に社会労働に取り組んでいる点で評価している。

⁽²⁾ 1960年から毎年3月8日に中華全国婦女連合会によって社会に大きく貢献した女性、あるいは女性団体に授与する荣誉称号。

⁽³⁾ 各領域で優れた業績を残した女性、あるいは社会に卓抜な貢献をした女性。

そして、女性が情緒的、受動的、伝統的な女性性を覆し、仕事より家族を優先するという女性に対するステレオタイプや「男は外、女は内」というジェンダー規範に挑戦したが、完全に「男性化」したわけではなく、時には女性特有の性質も表し、多元的、重層的な女性像を呈示したと述べた。また、家族が女性の仕事に対して支持的な態度を見せており、支援を行っていることなども記事の中でよく出ているということも言及している。

そして、中国唯一の婦女組合の連合である中国全国婦女連合会によって発刊された雑誌である『中国婦女』も、国営メディアの女性像を分析する上での重要な情報源である。風笑天（1992）は『中国婦女』を対象に、量的な研究手法を女性像分析に応用した点は先駆的であった。それによると、1950年から1990年までの、『中国婦女』で報道された325名の女性を対象として、生理的イメージ、職業、政治的イメージ、知識水平、報道された事柄、という五つの面からそれらの女性をカテゴリー化し、女性イメージの変遷とそれが反映した中国社会の変容を検討した。風（1992）によると、50、60年代に、『中国婦女』においては、生産労働に勤しんで、生産現場全体の利益を上げようと奮闘する女性像は典型的である。70年代は、生産現場全体の利益のために励む女性と努力によって個人的な成功を収める女性像が並存する時期となる。80年代になると、個人的な成功を収めるキャリアウーマンの女性像が主流的になるという。

王蕾（2018）も風（1992）の研究手法を継承し、1949年から2008年までの『中国婦女』の記事内容に加え、表紙についても考察を行っており、マスメディアが呈示した女性像の変容と中国社会の深層の変化、また国際環境との関係を検討した。王（2018）によれば、『中国婦女』における女性像は、国家権力、伝統的ジェンダー意識、主流的なジェンダー理論などの要素のせめぎ合いの中で、男性化（1949-1977）—女らしい（1978-1992）—多元化（1993-2008）という三つの段階を経た。そして中国婦人解放運動は女性の主体性が喚起されないまま国によって主導されたものであり、「女性性」が十分に検討されないまま、すべてが男性の規準で決められるのは第一段階の特徴であると述べた。さらに、市場経済の導入に伴い、国家統制力が弱まると、女性が再び市場経済によって自律性を失う危険性を語った。聶焱・王曉燾（2019）も風（1992）からの影響をうけ、21世紀に入ってから『中国婦女』における女性像に生じた変化に焦点を当て、分析を行ったという点で、風の1992年に行った研究の延長線上にある。聶・王（2019）によれば、1980年代を重要な区切りとして、80年代以降表象された女性像は全体主義というより個人主義に傾き、政治的な要素より知識的要素が重視され、中性的な生産者から女性性に回帰した消費者あるいは商品化されて、消費される側に転換した。その原因としては、聶・王（2019）はサービス業の台頭、商業化の進展と女性の教育水準の上昇を挙げた。

2-2 国営メディアにおける看護師像研究

実態としての看護師または患者が期待する看護師像に対する研究は中国国内外において散見されているが、メディアにおける看護師像に関しては、未だ研究の蓄積は十分とは言えない。馬冬玲（2018）は1949年以降の『人民日報』において、看護師に関連する文章を分析し、看護師のイメージがどのように構築されたのかを考察した。馬（2018）は『人民日報』の中の看護師イメージを「知識人」「労働者」「女中」「女性」という四つのイメージに分類し、検討を行った。

馬（2018）によると、中華人民共和国が成立し、市場経済が導入されるまでの時期では、国民教育と医療水準の低下のため、技術性、科学性、専門性は看護職を語る際、強調されていた。そのため、看護師はインテリで、専門的な能力と知識を持つ人たちとしての側面が強かったという。また、労働者としての看護師もよく報道の中で登場する。つまり、看護師を農民、肉体労働者と同じようなプロレタリアとして扱う見方である。このような言説の中で、一方、看護師は国民に仕え、献身的、勤労的な社会主義建設者として語られていた。もう一方で、労働者保護や労働者の権利に関する文脈でも看護師はときどき登場し、残業が多い、報酬が低い、満足度が低いといった問題は報道の中心となっていて、とりわけ市場経済が導入された後、このような傾向が顕著であるという。「女中」としてのイメージは、看護師に対する差別問題を語る際に、批判される考え方として現れる。看護師の専門性や技術性という側面が宣伝されていたにもかかわらず、現実には、このような「ケア」をする仕事に従事している人たちは常に差別されることを反映しているという。さらに、「女性」イメージというのは、看護職を女性性に結び付けることや、女性看護師が直面するワークライフバランス問題を語る際に持ち出される傾向のことである。

馬（2018）の研究は看護師という職業集団がどのようにマスメディアに表象されてきたのかという問題を俎上に載せる点で評価できるが、その分析が看護師像のカテゴリー化に留まり、報道に存在する問題や看護師像の表象と中国社会ジェンダー規範および社会構造との関係に関する議論は十分に深められているとは言い難い。

以上、本研究に関連する二つの研究分野の先行研究を概観し、その成果を整理した。これらから指摘できることは、おおよそ次の2点である。

第一に、国営メディアにおける女性像の研究は多くの蓄積があり、大変重要かつ示唆的であるものの、その大半は、模範女性あるいは女性全体に対する網羅的な分析であり、女性像の表象は社会主義時代の単一的な「男性化」された労働者像から、市場経済導入された後の多面的な女性像となっているという主張が主流的である。しかしながら、メディアにおける女性の表象は職業の性質によって異なると考えられており、それらの議論を乗り

換えるために、特定の女性集団あるいは職業に焦点を当て、より微視的に考察する研究が必要とされている。とりわけ看護師のような、ジェンダーと緊密に関連する職業に対してはさらに注目すべきである。

第二に、実態としての看護婦に対する研究が数多く存在するが、メディアによって構築された看護師像に関する研究はほとんどない。ヴィヴィアンバーによれば、「パーソナリティとは、人間行動を説明するための、そして社会で広く行なわれる他者との社会的相互作用で自分の役回りを予期するための、1つの理論と見られる……パーソナリティの概念自体を疑うのに加えて、私たちの示す個性がどんなものであれ、それらは私たちの置かれた特定の文化的、歴史的、対人関係的な環境の関数にほかならないというのである」(Vivien Burr 2015=2018: 50)。言うまでもなく、メディアにおける看護師像は実体としての看護師をそのまま反映するわけではなく、看護師という職業が置かれた特定の文化的、歴史的、対人関係的な環境の関数であると同時に、その言説に囲まれている現実の人々の心や行動にも影響を与えている。さらにメディアによって構築された看護師にまつわる言説空間と実態としての看護師の間に生じるギャップは看護師が抱えている深刻な状況を隠蔽し、看護師という職業に対するステレオタイプを深める危険性も育んでいる。実体としての看護師のためにも、看護師にまつわる言説の分析という視座は必要とされる。なお、中国の看護領域において、極端に偏った性別比という現状に踏まえて、ジェンダー視点が不可欠であると思われる。

3 調査方法

本稿では『人民日報』のデータベースに「护士」(あるいは「護士」看護師の中国語訳)「护师」(「護師」とは一般看護師より少し高いレベルの看護師)、「护理部主任」(「看護部長」とは病院看護部の行政管理部門の高い職位)をキーワードとして入力し、新型肺炎 SARS ウイルスと COVID-19 の感染爆発期を対象に、この二つの時期における看護師イメージの特徴を比較しながら分析を行っていく。中ではキーワードが出るだけで、具体的な報道が展開されなかった記事や新型肺炎 SARS ウイルスと COVID-19 感染症と無関係の記事は研究対象から外される。調査期間に関しては、初めての疑似症患者が現れた日を調査の初日として、感染症流行期の看護師に対する報道が急激に減少し始めた日を調査の最終日とする。2002 年 11 月 16 日前後に新型肺炎 SARS ウイルスを感染した初の患者が現れたと思われるにもかかわらず、それに関する報道は 2003 年 2 月 12 日に『人民日報』に登

場し始め⁽⁴⁾、さらに、医療現場に関する具体的な報道は2003年4月6日に初めて現れ⁽⁵⁾、5月をピークとして、7月初頭の感染収束に伴い、急激に減少した。それに対して、2019年12月初頭に新型コロナウイルスはじめの患者が現れたと思われているにもかかわらず、それに関する報道は2020年1月21日に初めて『人民日報』に登場し⁽⁶⁾、医療現場に関する具体的な報道は1月25日に現れ⁽⁷⁾、2月をピークとして、5月から急激に減少した。新型肺炎 SARS ウイルス時期（2002年11月16日 -2003年7月10日）に報じられた関連記事の数は115篇があり、COVID-19 時期（2019年12月1日 -2020年5月31日）は209篇がある。それらの記事の中で描かれた看護師たちの特徴、報道の展開を具体的に記録し、次の三つの分析を行った。

第一に、報道された看護師の男女別人数、年齢、政治的身分、職名と職位の分析を行った。第二に、看護師の外見的特徴、性格特性、行動の分析を行った。第三に、報道のスタイル、物語の展開の仕方に焦点を当てて分析を行った。

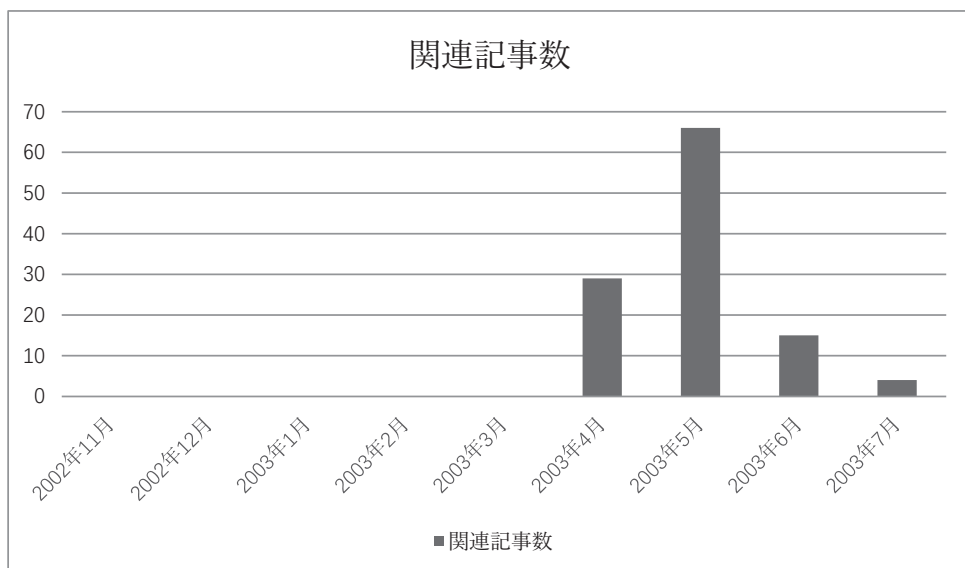


図1 看護師に対する報道の記事数の推移（新型肺炎 SARS ウイルス感染爆発期）
出所：『人民日報』（2002.11.1 - 2003.7.31）をもとに作成

⁽⁴⁾「广东省部分地区出现非典型肺炎（広東省の一部の地域に新型肺炎が発生）」『人民日報』2003.2.12

⁽⁵⁾「严把消毒隔离关我们很安全（消毒と隔離が徹底化されており、私たちは非常に安全である）」『人民日報』2003.4.6

⁽⁶⁾「要把人民群众生命安全和身体健康放在第一位 坚决遏制疫情蔓延势头（国民の命と健康を第一位とし、感染拡大を断固と抑える）」『人民日報』2020.1.21

⁽⁷⁾「紧急驰援 共赴时艰（紧急援助 共に困難を克服する）」『人民日報』2020.1.25

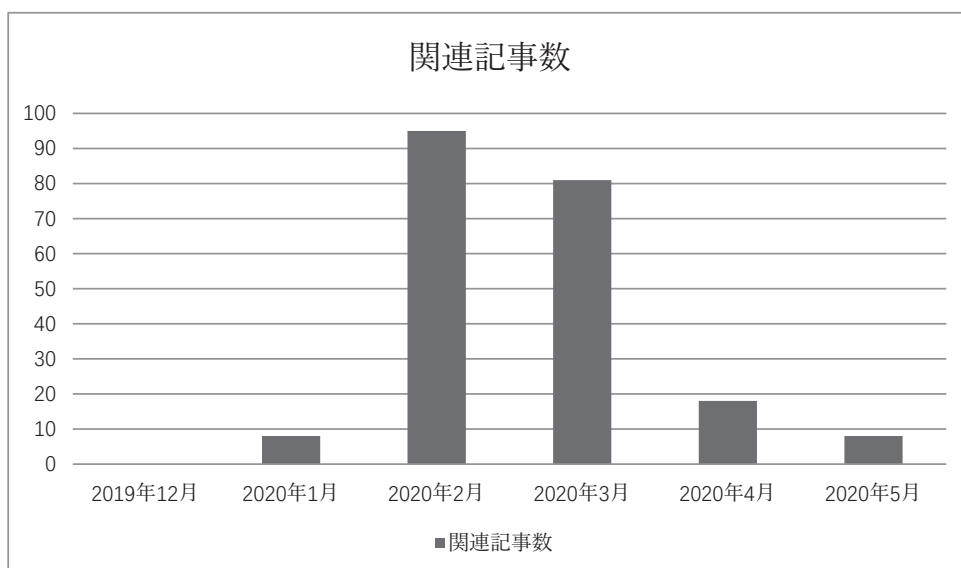


図2 看護師に対する報道の記事数の推移（COVID-19 感染爆発期）

出所：『人民日報』（2019.1.1 - 2020.5.31）をもとに作成

4 報道に映し出される看護師像

4-1 報道された看護師の男女比、年齢、職名と職位、政治的身分

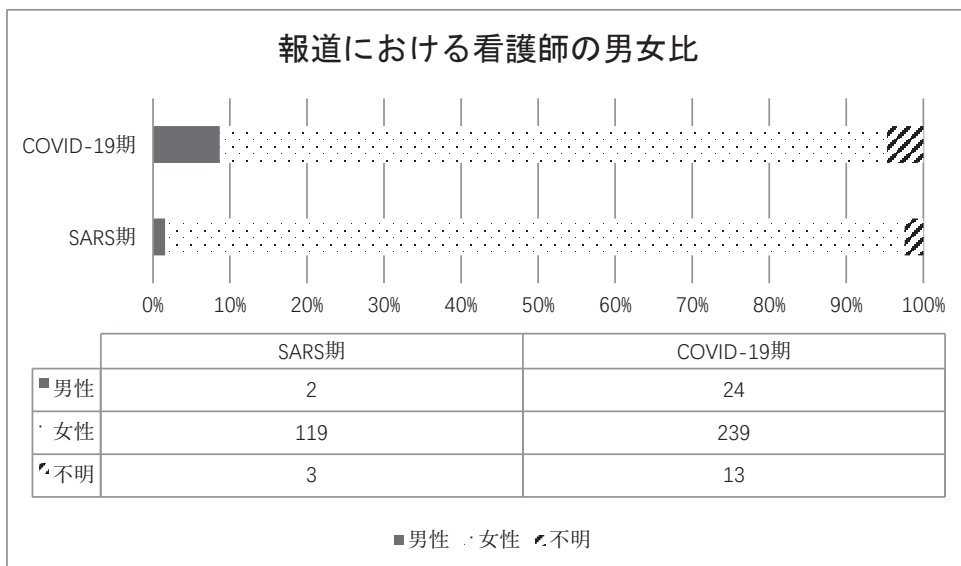


図3 報道における看護師の性別比

出所：『人民日報』（2002.11.1 - 2003.7.31）、（2019.1.1 - 2020.5.31）をもとに作成

まず、報道に女性看護師と男性看護師はどの程度現れているかを検討した。そこで、新型コロナウイルス SARS ウイルス感染爆発期と COVID-19 感染爆発期、それぞれの時期において現れた男女看護師の数を図3に示した。第三人称（中国語において、「他」は男性を指し、「她」は女性を指す）あるいは記事の内容だけで性別が判断できないのは「不明」というカテゴリに入れた。新型コロナウイルス SARS ウイルス感染爆発期の報道に登場した看護師数の124人中、男性看護師は二人しかいなくて、その中の一人——看護部長の楊西柳だけに対して具体的な描写があった。さらに、二人とも第三人称「他」を通して性別が判明されたため、男性看護師の性別は報道の中で特に強調されなかった。それに対して、COVID-19 感染爆発期の報道に登場した看護師数の282人中、男性看護師は24人いて、その中の14人が「男性」看護師という身分が強調されて、男性看護師を対象とする専門報道も2篇があった。中国衛生統計年鑑によると、2002年男性看護師の占める割合は1.7%⁽⁸⁾に対して、2018年男性看護師の占める割合は2.3%⁽⁹⁾となっており、15年間で0.5%増加した。男性看護師に対する報道の増加、そして報道では男性看護師の性別に対する強調は、実際の男性看護師割合の増加を反映した一方で、相変わらず男女看護師性別の極端な偏り、男性看護師が極めて不足しているという事実に対する焦りとも関係する。そうはいつても、男性看護師に関する報道と女性看護師に関する報道の間には歴然とした差がある。

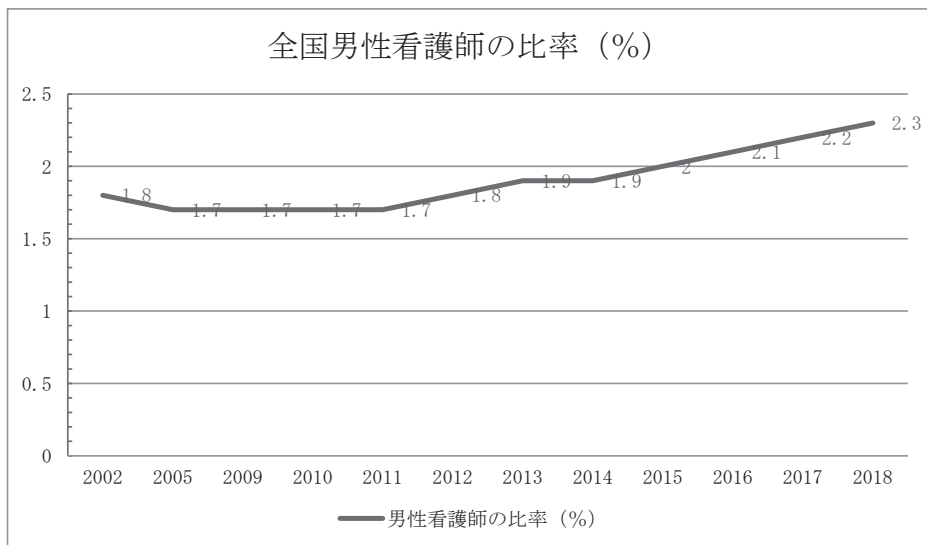


図4 中国男性看護師の比率

出所：(中国) 国家卫生健康委員会『中国卫生健康統計年鑑』2005年、2010年－2019年をもとに作成
 ※ 2003年、2004年、2006年、2007年、2008年のデータが欠けている

⁽⁸⁾ 中華人民共和国衛生部, 2005, 『中国衛生統計年鑑 2005』

⁽⁹⁾ 中華人民共和国衛生部, 2019, 『中国衛生統計年鑑 2019』

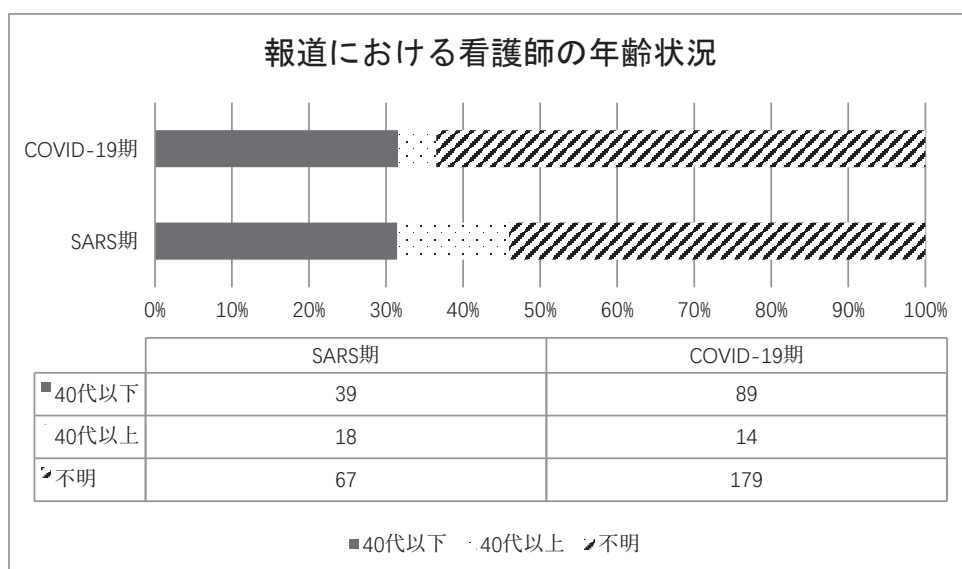


図5 報道における看護師の年齢の割合

出所：『人民日報』（2002.11.1－2003.7.31）、（2019.1.1－2020.5.31）をもとに作成

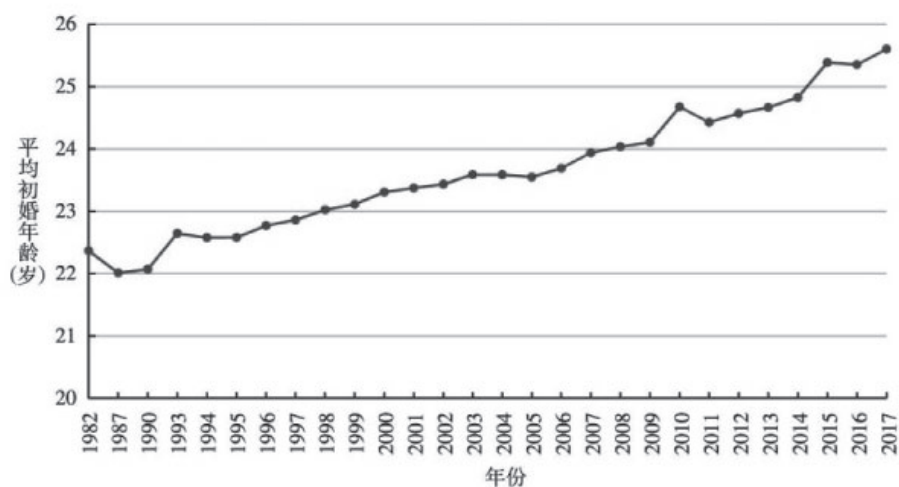


図6 1982年—2017年中国女性平均初婚年齢の推移

出所：淡静怡・姜全保（2020）「中国女性初婚模式变动趋势研究」『人口学刊』

	1990 年 (岁)	1995 年 (岁)	2000 年 (岁)	2005 年 (岁)	2010 年 (岁)	2015 年 (岁)
中国						
MAC	26.12	25.22	25.87	26.41	28.44	28.48
MAC ¹	23.42	23.81	24.50	24.59	26.65	26.63
MAC ²	26.57	27.40	28.80	29.79	30.83	30.21
MAC ³⁺	30.72	30.43	31.08	31.58	33.44	32.56
日本						
MAC	28.94	29.38	29.66	29.97	30.52	31.20
MAC ¹	27.16	27.76	28.01	28.61	29.26	30.01
MAC ²	29.44	29.99	30.52	30.72	31.24	31.95
MAC ³⁺	31.97	32.54	32.92	32.88	32.94	33.25
韓国						
MAC	27.19	28.01	28.90	29.97	30.55	31.85
MAC ¹	25.97	26.60	27.54	28.76	29.47	30.83
MAC ²	28.02	28.78	29.58	30.83	31.31	32.67
MAC ³⁺	31.40	32.02	32.41	33.38	33.56	34.40

図 7 1990—2015 年中日韓女性パリティ別平均出産年齢

出所：宋健・張婧雯（2017）「孩次、生育时间与生育水平—基于中日韩妇女平均生育年龄变动与差异的机制研究」『人口学刊』

そして、報道における看護師の年齢状況を図 4 に示した。40 代を境目とする理由は以下の通りである。報道の中では年齢が明記されていないにもかかわらず、「若い看護師」「90 後」「入職したばかり」「お姉さん」というような表現から年齢が大体 10 代から 30 代まで推測できるものが多い。また、「年長な看護師」「中年看護師」「おばさん」というような表現から少なくとも 40 歳以上という印象が強い。やや主観的であるように見えるかもしれないが、新型肺炎 SARS ウイルス感染爆発期と比べると、COVID-19 感染爆発期の報道の中心が若い世代に集中しているという結果には影響が少ないと思われるだろう。一見して、COVID-19 感染爆発期になると、40 代以上の看護師に対する報道が減少し、代わりに看護師の年齢状況不明の報道が増加し、40 代以下の若い看護師に対する報道の割合はあまり変わっていないように見えるが、記事の報道の仕方に関して更に詳細に分析すると、報道の重心は段々若い世代に移りつつあることが明らかになった。新型肺炎 SARS ウイルス感染爆発期において、詳しい年齢状況がわからないにもかかわらず、「結婚したばかり」や「10 歳以下の子供がいる」というような状況が判明できる看護師は 14 人いて、全体の

約 11.3% を占める。それに対して、COVID-19 感染爆発期では同じ条件の看護師は 49 人がいて、全体の約 17.4% を占める。1982 年—2017 年中国女性平均初婚年齢の推移（図 5）によると新型肺炎 SARS ウイルス感染爆発期の 2003 年から 2017 年まで女性の平均初婚年齢は 23 歳から 27 歳の間にある。また、宋健・張婧雯（2017）によると、2000 年中国女性の平均出産年齢は 25.87 であり、2015 年中国女性の平均出産年齢は 28.48 となる（図 6）。そのため、詳しい年齢状況がわからないにもかかわらず、「結婚したばかり」や「10 歳以下の子供がいる」というような情報だけで、看護師の年齢は 40 代以下の可能性が高いと思われる。このような暗黙知を考慮した上でさらに計算した結果として、新型肺炎 SARS ウイルス感染爆発期に 40 代以下の若い看護師に対する報道の割合は 41.1% を占めることとなるのに対して、COVID-19 感染爆発期に 40 代以下の若い看護師に対する報道の割合は 49% を占めることとなる。そのみならず、COVID-19 感染爆発期に「90 後」⁽¹⁰⁾ という若い世代を対象とする専門報道も 10 編がある。これらの記事は看護師たちの年齢の若さを強調し、彼らの成長に注目したり、社会がその若者たちに対して抱くイメージとは合わない、想像以上の冷静さと責任感を強調したりしている。例えば北医三院の感染管理科副主任、袁曉寧は「今回のことは社会の皆に『90 後』を見直させることができた。彼らはもう昔の人たちが思ったような甘ったれた子ではなく、苦勞と犠牲を恐れない戦士である」（『人民日報』2020.3.17）と「90 後」を高く評価した。「90 後」は社会変遷が激しい、経済が飛躍的に発展する、グローバリゼーションが突進する、また情報化が目覚ましく進展する時代に生まれ、中国の成長とともに育ち、上の世代と比べると鮮明な特徴がある。それと同時に、「90 後」に対しては、他人との差異を求め、利己的、忍耐力がないといったマイナスなイメージが常に強調されていて、中国の伝統的な価値観はこの世代で崩れてしまうのではないかという危機感を抱いている人も少なくない。COVID-19 感染爆発期の報道の中で、若い世代の看護師に関する報道が圧倒的に多く、とりわけ彼女たちの成長ぶりを高く評価し、人々が「90 後」「00 後」に対する偏見を取り除こうとしている。なぜなら、「90 後」の成長は、ある意味で、利己主義の凋落、全体主義時期の価値観の復興を示しており、国の未来に対する焦燥感と不安を払拭することに繋がっている。

そして、報道における看護師の職名と職位を図 7 に示した。中国看護師の職務は学歴、経験年数、資格などによって決められる技術的ルートの職名と管理的ルートの職位に分けられている。職名と職位の関係は図 8 に示した。新型肺炎 SARS ウイルス感染爆発期と比べ、COVID-19 感染爆発期では初級看護師と中級看護師に対する報道の割合が増加し、管

⁽¹⁰⁾ 1990 年以降生まれた世代、現在は 20 歳—30 歳の世代。

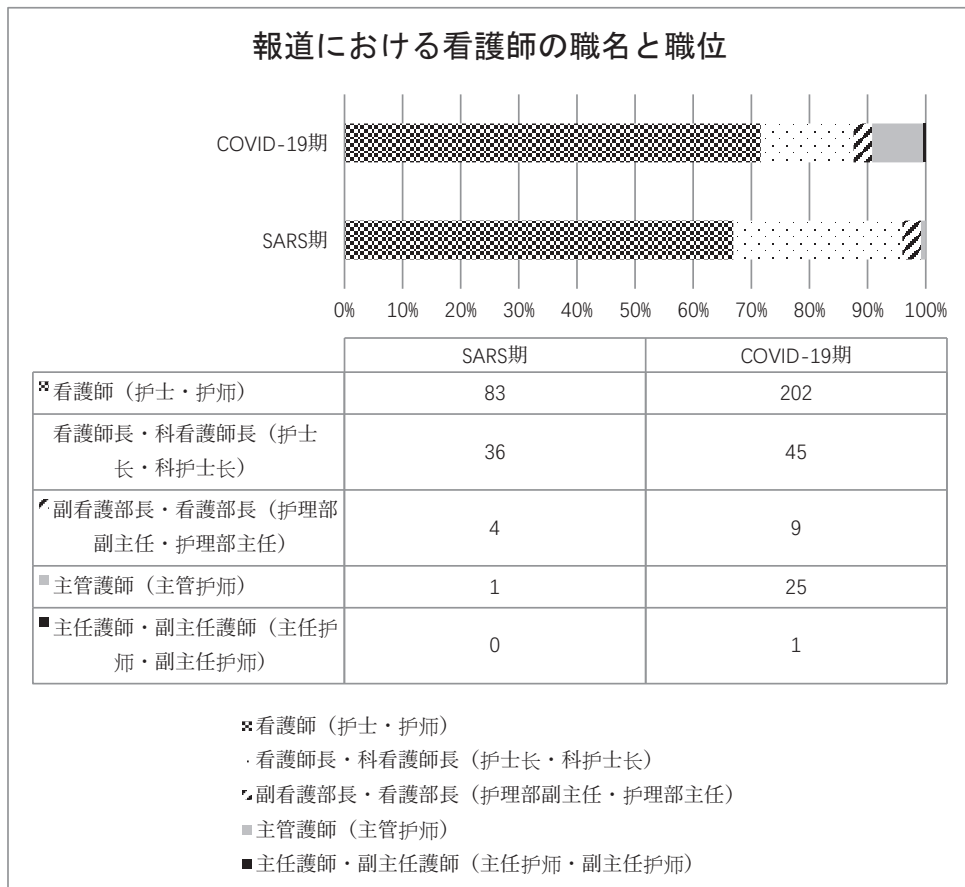


図 8 報道における看護師の職名と職位

理職のリーダー看護師（看護師長）に対する報道の割合が減少した。初級看護師に対する関心の高まりは、前述の若い世代の看護師への注目の増加とは一致している。中級看護師にする報道の増加は、近年、看護師全体の学歴の上昇と関係があると思われる。感染症流行期の報道様式は経験に富むリーダー看護師への注目から献身的な精神に駆り立てられる、積極的な若い世代に焦点を当てる形となったことがわかる。

最後は、報道における看護師の政治的身分を図 7 に示した。報道における共産党員としての看護師像の明確な特徴は模範的な役割を担っていることである。共産党員だからこそ、彼らが民衆を守る使命があり、現場の真っ先に突進することが求められている。そのため、共産党員としての看護師は他の看護師と比べ、さらに厳しく要求され、誰よりも積極的に取り組まなければならない。新型肺炎 SARS ウイルス感染爆発期と比べ、COVID-19 感染爆発期で報道された看護師の中、共産党員という身分が言及される人数が減少したことが

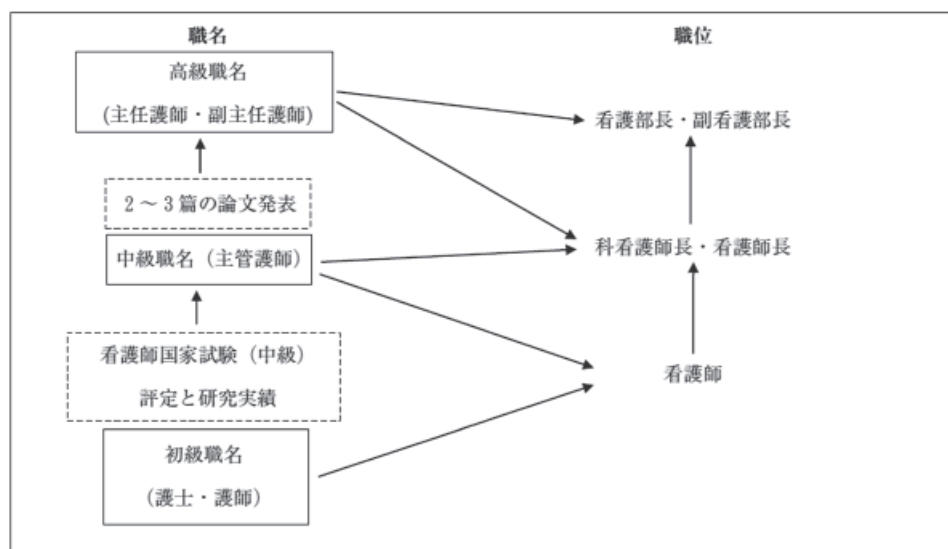


図9 中国の看護師の職名と職位の関係

出所：路璐・北池正・池崎澄江（2019）「中国の中堅看護師における専門職的自律性と看護研究活動との関連」『日本看護研究学会雑誌』

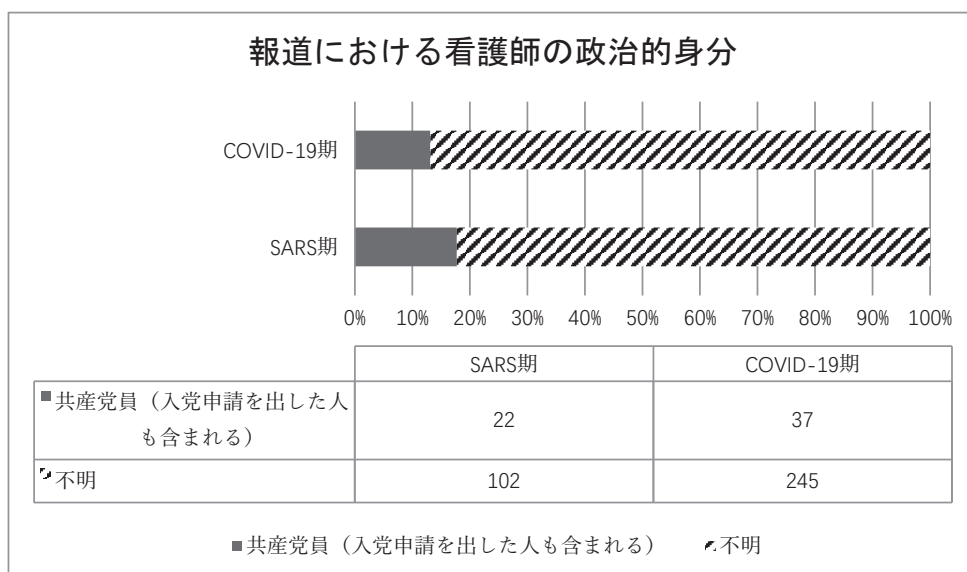


図10 報道における看護師の政治的身分

わかる。しかし、それは看護師の党員身分が報道での重要性の低下を代表するというわけではない。何故かという、看護師に対する報道と平行する、共産党員が感染症流行期で

の貢献を称賛する報道は明確な減少傾向が見られないことと、現場の真っ先に進むため、共産党員に加入しようとする看護師たちの事跡についての報道がたくさんなされているからである。つまり、報道に登場した具体的な看護師に対する報道は政治的身分という属性より、個人的な情報（例えば家族状況、婚姻状況）に対する関心が高まった。

4-2 ジェンダー視点からみる看護師像

次は、記事の中に登場する男性看護師と女性看護師、それぞれどのような特徴を持っているか、外見的特徴、性格特性、行動特性の分析に注目しジェンダー的視点からその傾向を比較した。女性が圧倒的に多い看護師業に対する報道では男性看護師を対象とする報道は非常に少ないため、女性看護師と比べると男性看護師の特徴を描く言葉がかなり少ないことは驚くことではない。とはいえ、看護師の性格的な特徴を表す言葉はジェンダー面において特に大きな違いは見られないことも表1表2からわかる。男性看護師に対しても、女性看護師に対しても、患者への思いやりや、ウイルスと戦う強い意志、根性、勇敢さは同じように強調されている。しかし、女性看護師と比べ、男性看護師については、肉体的な労働に勤しむことがより強調される点は指摘できる。また、女性看護師に対して、外見的特徴を表す言葉が多くあるものの、男性看護師に対する外見上の描写は見当たらないことも特筆する必要がある。特に弱弱しい、小柄で、痩せこけているといった外見上の女性性と強い精神力、頼もしい働きぶりに対比させながら女性看護師像を浮き彫りにする報道の傾向が見られる。新中国が成立してから今までの間、メディアにおける理想的な女性像はイデオロギーや揺政治的な揺れ動きと市場経済の改革に伴い、頻繁に変わっている。社会主義初級段階において女性は男性と同じ「労働権」を手に入り、男性と肩を並べて社会活動に参加することが可能となった。「男女都一样」（男と女はみな同じである）という女性解放論のスローガンのもとでは、伝統的な男性の労働領域に入った女性たちは不可避免的に男性の規準で活動し、自分たちの貢献を社会的に承認するよう求めた（金 2006）。そのため、その時代では、現実においても、メディアにおいても、女性の「男性化」という現象が生じたと指摘されている。商業化の進展、全体主義の衰退、個人主義の向上、それに社会主義時代婦人解放運動に対する批判的な再考に伴い、男性化の女性像もしばしば批判され、段々後退していく。それで、感染症流行期の女性看護師像は社会主義時代が推奨した女性像と当代中国社会の妥協として見ることができよう。外見上の女性性の表出と精神上の男性化の傾向（例えば鉄のような強い意識に対する強調など）は感染症流行期の女性看護師像の根本的な特徴となっている。その一方、伝統的な女性の労働領域に入った男性たちに対して、メディアは男性が肉体的な労働における優勢を強調する傾向がある。社

表1 女性看護師に対する表現

時期	新型コロナウイルス SARS ウイルス期	COVID-19 期
形容表現	外見的： 瘦弱（やせて弱々しい）瘦小（小柄で瘦せている）娇小（きゃしゃ）瘦削（やせこけている）柔弱（柔弱な）苗条（スリムな）漂亮（きれいな）美（美しい）稚嫩の（若くてしなやかな）花样的（花のような）天使般的微笑（天使のような微笑み）青春靓丽（若くてきれいな）文静秀气（しとやかで端麗な）	外見的： 娇小（きゃしゃ）俏丽的（綺麗な）柔弱（柔弱な）瘦削（やせこけている）仿佛云雀般（ヒバリのような）稚气（無邪気な）美丽（綺麗な）
	性格的： 毅然（毅然とした）亲切（親切な）坚定的（確固としている）坚强的（意志が強固である）细心（心遣いが細やかな）主动（主動的）耐心（辛抱強い）和蔼可亲（親切で親しみやすい）温柔（優しい）平静（冷静な）温情（温かい）镇定（落ち着いている）无畏（大胆な）坚如钢铁（鉄のような強い意志を持つ）	性格的： 主动（主動的）耐心（辛抱強い）细心（心遣いが細やかな）坚强（意志が強固である）坚毅（意志が強固である）坚定（確固としている）坚决（断固としている）毅然（毅然とした）刚（硬い）认真负责（真面目で、責任感がある）细致周到（心遣いが細やかで周到な）毫不犹豫（躊躇なく）毫不含糊（真面目な）不挑剔（好き嫌いをしない）倔强的（剛情な）果敢（果敢）干练（練達である）利落（てきぱきしている）冷静（冷静な）沉稳（穏やか）和气（和やか）不苟言笑（態度が謹厳である）执着（執着）英勇（英勇である）仗义（義理堅い）大气（洒脱）内向（内気）文文静静（淑やか）体贴（人を思いやる）柔（優しい）有爱心（愛情があふれる）
行動の特徴	義として振り返って顧みることなし；現場に向かうことを主動的に、積極的に申し出る；怖がらず、なにごとにも屈しない；個人的な辛さ、苦痛を我慢し、外に表さない；気を緩めず；自分の利益を顧みない、自分の要望を口にしない；仕事を整然と切り盛りする；黙々と働く；丁寧な対応をする	頑張り抜く；仕事を夢中にする；現場に向かうことを主動的に、積極的に申し出る；振り返ってためらうことができない；怖がらず、なにごとにも屈しない；音を上げない；個人的な辛さ、苦痛を我慢し、外に表さない；一番危険なことを引き受ける；様々な困難を克服する；勇敢に立ち向かう

表2 男性看護師に対する表現

時期	新型肺炎 SARS ウイルス期	COVID-19 期
形容表現	耐心（辛抱強い）	坚定（確固としている） 主动（主動的） 有爱心（愛情にあふれる）细心（心遣いが細やかな）耐心（辛抱強い）
行動の特徴	困難や危険に勇敢に立ち向かう	現場に向かうことを主動的に、積極的に申し出る；疲れを感じず；人の話をちゃんと聞く；肉体的な労働に励む；きつい仕事や危険な仕事を我先にとやる；身の危険を顧みず奮闘する

会主義時代では、女性が伝統的な男性領域に入って、男性と同じように働くことは「解放された」象徴であり、社会的な承認とも考えられる。それに対して、伝統的な女性の労働領域である看護師業に入るかどうかは、当代の中国男性にとっては合理的選択によって決めることとなった。さらに、男性にとって、女性性がある仕事は常に情けない仕事と思われがちため、それが男性看護師の離職する重要な理由となる。（胡 2016）それゆえ、男性看護師に対する描写では、女性的な行動の特徴が回避され、逆に男性の生理上の優位性を際立てる。

5 報道から見る「中国特設主義」女性性

この節では、感染症流行期の看護師に対する報道の具体的な報道の仕方に着目し、そこから見られる当代中国が女性に対する新たな期待を検討する。

5-1 集合的意識との連続性

全体主義の後退、グローバリゼーションの時代で成長してきた新しい世代の台頭により、社会的な統合に対する不安と焦燥感是中国社会の中に漂っている。とりわけ感染症流行期という緊急事態においてどのように人的資源を素早く調達し、感染病と戦う国民の一体感を高めることは国にとっては、喫緊の課題と思われる。そこで、メディアはまず戦場にあ

る臨場感を国民に伝え、戦争時代の集合的な記憶を喚起し、国の結束力を強める。感染症流行期の報道には戦争と連想させるような描写は遍在している。例えば2003年4月13日の、「白衣戦士——一番可愛らしい人」をタイトルとする記事は、看護師たちを「砲煙のない戦争に立ち向かう」人たちと呼び、「エビデミックは命令であり、病院は特殊の戦場である」、「危難に遭遇するたびに、白衣戦士として、彼らは素晴らしい責任感と使命感を見せる」（『人民日報』2003.4.13）という表現を使い、治療現場の緊迫さと危険性を際立たせ、神聖かつ厳粛的な看護師像を作り出している。また、医療現場で働く看護師チームのことを「娘子軍」と称賛する記事もある（『人民日報』2003.4.28）。「娘子軍」の全称は「紅色娘子軍」であり、その原型は1930年代に中国海南島に誕生した婦人ゲリラ部隊である。「紅色娘子軍」部隊は婦人解放運動の面においても、共産主義革命という面においても大きな意義を持つため、その物語がのちに一連の文学作品、舞台作品、映画作品に改編され、中国の革命叙事における代表的な女性像となった。執筆者は女性看護師たちを革命叙事の中の女性ヒロインに例えることを通して国の歴史に刻印される革命記憶を喚起し、社会主義初期における全体主義があふれる雰囲気を作り出し、看護師たちの献身的行為をドラマチックに描いた。これらの言説は、戦場としての医療現場のイメージを作り出し、その場に漂う危険と緊迫な雰囲気が強く伝わってくる。

また、COVID-19 感染爆発期では、「報恩」を主題とする叙事を通して、汶川地震や SARS 爆発という集合的記憶を喚起し、現在との連続性を繋ぐような報道も見られる。例えば2020年3月6日の記事——「風雨を恐れず、青春には悔しみなし」（『人民日報』2020.3.6）においては、2008年汶川地震の際、まだ12歳の女の子が被災地で医療救護活動を行っていた看護師たちの姿に感銘を受け、看護師になることを志、12年の後、看護師としてCOVID-19治療現場に向かうこととなった話を語った。また、「2003年のSARSであなたちはまだ子供である私たちを守り、2020年の今日は私たちがあなたちを守る番になる」（『人民日報』2020.3.22）ということを書いた若い女性看護師の話も報道された。このようにして、「全体主義時代」を生きた経験がなかった若い世代も一連の社会的な出来事を通して、全体主義叙述の中に包括されていく。

5-2 「舍小家，為大家」言説における看護師

中国の伝統社会では「家国同構」というイデオロギーが存在し、「国は大きな範囲として家の構想と重なり、家族は国の至上の位を守るために、基本的かつ主要な支持を提供する」（任・林 2000: 82）。「1949年以降、主流的なイデオロギーは家族を近代化の妨害と見なす考え方を受け継ぎ、私有制の終結かつあらゆる『私』と関連する領域および考えのス

ティグマ化は全体主義時期の独特な『褒公貶私』原則を構成した……総じて言うと、全体主義時期においては、家族と社会の関係を考える際、『舍小家、為大家』という理念に支配され、私領域として存在する家族は正当性が認められなかった」（呉 2016: 174）。社会主義時代において、女性は公式的には家父長制的な家から解放された一方、完全な自主性を取得前に、また国に依存するようになったと思われる。「改革開放」政策の後、市場経済の発達およびグローバリゼーションの影響で、中国の家族は再編され、家族の親密化が進展しつつあり、メディアにおける女性も社会化された生産組織の一員という単調的なイメージから脱出し、家族の一員としての、娘、母親、妻の身分が強調されるようになった。しかし、中国の福祉体制は個人に対する支援が足りないため、個人は完全に家族から自由になったわけではない。そのため、家族は国家と個人が争う資源になり、国は家族を通して社会秩序を整え、個人は家族を資源として利用する（呉 2016）。

とりわけ感染症の蔓延、災害の発生といった緊急事態が生じる際、全体主義時期の家族にまつわる言説が再び高まり、「舍小家、為大家」の理念がマスメディアによって唱えられ、家族の親密領域としての性格が弱まり、公共的な意味が再び強調されるようになった。ただし、社会主義時代のプロパガンダとは違って、感染症流行期において、メディアにおける「小家」「大家」にまつわる言説は看護師を交差点として巧妙に組み込まれている。新型コロナウイルス感染爆発期と COVID-19 感染爆発期で報道された看護師の中で家族に言及するのは、それぞれ全体の 38%、40% を占める。それらの記事は看護師たちが直面する仕事と家庭の両立問題を問題視するというより、家族が看護師たちの仕事に理解し、応援することで、看護師らがより良い看護を提供するために後顧の憂いを断ち、全力で支えている様子だけが描かれている。

いくつか事例を見てみよう。記事の中では「舍小家、為大家」の理念が頻繁に持ち出され、家族に対して良心の呵責を背負いながら仕事に没入する看護師たちのつらい思いが語られる一方で、そのつらい思いを克服し、全身全力で仕事に取り組む姿勢が高く評価された。家族に内緒しながら現場で働く娘たち（『人民日報』2003.4.15『人民日報』2020.2.22）、熱が出た娘の面倒を見ずにずっと医療現場にいる母親（『人民日報』2003.4.21）、結婚式を先送りしたカップルたち（『人民日報』2003.4.23『人民日報』2020.4.4『人民日報』2020.4.14）、病気でなくなった父の「面倒を一日も見なかった」娘（『人民日報』2003.4.24）、夫の猛反対を顧みず現場に駆け付けようとする妻（『人民日報』2003.4.30）といった看護師たちはその典型的な例である。『人民日報』が呈示したのは、社会的に課される役割期待と家族の一員としての役割が両立不可能という状況に追われる際、躊躇なく社会を選ぶという均一的な看護師像である。しかしながら、社会主義時代が宣伝した、感情的な動揺が全く見

えないまま革命に献身する女性像と違い、家族から離れ、命をかけて医療現場に向かう女性看護師たちが母親、娘の役割がきちんと果たさないことで家族にうしろめたさを感じながら、良心に責め苛まれる心境もしばしば報じられる。医療現場における勇ましい、何事にも屈しない、様々な困難を克服しぬく強い女性看護師像と家族のことについて感受性豊かとなる女性看護師像は鮮明な対比となる。しかし、女性看護師たちが背負う精神上的の苦痛は、社会への献身、国民を守るための英雄的な行為、子供の模範という言説に覆い隠され、「家族」に関する言説は看護師の献身的な行為を称賛するだけのために用いられ、看護師たちが抱えた私領域の問題は不問のまま残っている。

5-3 操作された「中国特設主義」女性性

近代化に伴って、中国社会の女性性に対する規範は国の発展、要望に応じながら、紆余曲折を経て、常に揺れ動いている。帝政時代の清において、男女隔離という社会規範のもとで、貞操と純潔を守る、従順的、受動的な女性性が社会に求められていた。そして国力の衰退と西洋列強の侵入に伴い、知識人の間では国の文明性、近代化に対する反省が喚起されつつあり、民国初期になると、近代国民を育む賢妻良母説や経済独立を実現する近代女性の推奨など、民族危機とナショナリズムに触発された女性性をめぐる議論は知識人の間で盛んに行われていた。日中戦争になると、ナショナリズムと戦闘意志を喚起するための柔弱な被害者としての女性像、兵士たちを支援、ケアする女性像と女性の特徴が薄められる、隠蔽される戦闘員としての女性像が抗日プロパガンダ・ポスターに併存している（姚・馬 2015）。毛沢東時代になると、積極的な、主動的な、社会に貢献する女性像が推奨されていた。さらに文化大革命期になると、女性の伝統的な特質が完全に抹消され、後にはこの傾向が女性の「男性化」として批判される。文化大革命の失敗により、「男性と女性は同じである」というスローガンのもとで、女性の生理上の特殊性を無視し、男性の規準で女性を要求する社会主義婦人解放運動が一部の知識人によって内省された。さらに市場経済の導入に伴って、文化大革命時代に抹消された女性性の回復を唱える風潮があり、中国社会は女性性に対する定義もますます多様化になるようになった。要するに、ある時代の理想的な女性像はある程度現実を反映する一方で、社会の期待や要望によって、巧に操作されていることが言える。今回の女性看護師に対する報道はまさに中国の特色がある社会主義社会に要求される女性性を表に出すものである。毛沢東時代の献身的、主動的、自己犠牲的な資質が最大限に表現され、その同時に、家族に対する責任感を強く感じながら苦渋な決断を下し、涙を流す弱い一面も呈示される。母性的な女性性、従順的な女性性、革命精神を持つ、勇猛果敢な、戦闘員のような女性性といった中国歴史の中で異なる時代要

請に依じて蓄積されてきた様々な女性性は感染症の看護師に関する報道に凝縮されている。しかも、このような女性性は報道の中で巧みに操作され、場面によって使い分けられている。

例えば、患者との関係に言及する際、「お母さんのような」「娘のような」という表現がよく用いられ、女性看護師が患者に対する親しみと優しさ、それに、女性特有とされる感受性や共感能力は看護師イメージの構築に利用されがちである。それに対して、看護師たちの逞しさ、冷静な態度、堅忍不拔、勇猛果敢の精神といった社会主義時期に盛んに宣伝された性質は過酷な状況で体の限界を突破しながら働く場面で強調される。仕事の現場で冷静な、強い一面が強調されるに対して、両親や子供に言及する際に感情豊かな一面が際立てられる。一方で、報道には家庭内におけるジェンダー役割規範を揺るがす可能性も潜んでいる。市場経済が発達してから一家の「大黒柱」としての夫というイメージはますます強くなり、中国では主婦化現象が生じ、ジェンダー規範の「伝統への回帰」という傾向が見られると多くの研究で指摘されたが、緊急事態が生じ、全体主義が高まる際、公的言説の中では、家族内のジェンダー役割が揺るがされたように見える。新型肺炎 SARS ウイルス爆発期と比べ、COVID-19 感染爆発期では夫が看護師の妻を支持することを語る記事が増えている。例えば 2020 年 2 月 4 日の記事「彼らは私たちを守る、私たちは彼らを支援する（民生観）」において、看護師の妻を見送る際、「無事に帰ってこい！無事に帰るなら、僕、一年分の家事をやる！」（『人民日報』2020.2.4）と叫んでいた夫がいる。この事件はネット上で、あっという間に拡散され、多くの好評を博した。2020 年 2 月 15 日の「医療従事者日記」において、孫の世話をしながら、毎日看護師長である妻に弁当を届けた夫の話が語られている（『人民日報』2020.2.15）。そのほか、感染を避けるため、車を運転して妻の後ろを付きながら見送りをする夫（『人民日報』2020.2.26）、娘を抱きながら妻を見送ったり、出迎えたりする夫（『人民日報』2020.4.14）のことも美談となっている。公共利益の前では、女性の「家内性」は軽視されて、公共領域での活躍が最優先されるようになった。この論理は毛沢東時代の社会要請の延長線上にあると思われるが、ただし、毛沢東時代の公的言説においては、女性の社会参加が要求され男性の家事分担はそれほど期待されなかった。感染症流行期という緊急事態の際、圧倒的に女性が多い労働領域にいる看護師にとっては家事問題と育児問題は避けがたい問題となり、そのような特殊事態だからこそ、「女性性は外、男性は内」というようなジェンダー役割分担が合理的となった。

更に特筆すべきなのは、「断髪」に対する描写である。新型肺炎 SARS ウイルス時期の報道においても、髪を切った女性看護師に関する報道が 1 篇あるが、髪を切ったこと自体は報道の中心ではなく、一言で触れる程度しかなかった。報道された女性看護師の年齢も

中年層に属している。COVID-19 時期において、女性看護師が髪を切ったことを報道した記事は 12 篇あり、記事の中の女性看護師の年齢層は比較的若い。これらの言説の中で、髪を切ったことは看護師たちの献身的な行為として称賛され、まるで全体の利益のために私益を捨てる精神の至上表現となっている。また、報道の中では、髪を切ったことに対して、「気にしない」「自分で決めた」「それより、命を救うことが重要」という態度を持っている看護師が多数である。中には、悲しいものの、仕事のため仕方がないと思う看護師もいるが。文句や不満を持つ看護師が見当たらない。「断髪」という行為は実は歴史的、イデオロギー的な意味合いが含まれている。「断髪」という行為は一方で、女性が自分の外見に対して気にしない、労働、あるいは革命事業に専念する決心を表すことができる。毛沢東時代は生産至上の原則のもとで、女性は自分の身なりに過度の関心を払うと、生産を妨害する「ブルジョア的」行為として批判されがちであった。逆に、素朴な恰好と颯爽たる短髪は社会主義社会に似合う進歩的、理想的な女性像であった。もう一方、女性の断髪も男性同胞と共に戦い学ぼうという決意を表明するものだった(Finnane 1996: 111-5)。また、毛沢東時代の革命模範劇に描かれた女性英雄は成長過程において次第に女性的特徴を薄め、男性英雄の行動パターンや価値観に同一化する。(牧・松浦・川田 2000) その中で代表的なのは長髪から短髪になることである。2003 年の新型肺炎 SARS ウイルスが発生した時期に医療前線で活躍していた医療従事者たちは 50 年代から 70 年代生まれの世代が中心であり、これらの世代では毛沢東時代の全体主義記憶がまだ残っている。それに対して、2020 年の COVID-19 の治療前線で活躍する世代たちは 1980 年以降生まれの若い世代が多くて、これらの世代にとって毛沢東時代の全体主義的な精神は遠い記憶となっている。国内外の多元的な価値観のもとで成長してきた新しい世代の女性たちにとって、髪型はすでにイデオロギーと関係なく、当代社会のジェンダー規範やジェンダー化された美の規準によって決められる。そのため、「断髪」さらに「丸刈り」という行為は新しい世代の女性たちにとって、すでに「自己解放的」「進歩的」な意味がなく、逆に、個人が追求する理想的な「個人像」を放棄することを意味する。つまり、「断髪」を選んだ若い看護師たちは個人主義を放棄し、人民に仕える全体の一員となることを暗示している。しかし、そもそも断髪あるいは丸刈りにする必要があるかどうかについての議論を行わず、若い看護師たちにとっての受け入れづらい断髪行為を「自己犠牲的な称賛すべき行為」として合理化し、称賛することは断髪行為を硬直化し、単一的な基準を看護師に押し付け、ストレスを感じさせる恐れがある。

6 まとめ

本稿では新型肺炎 SARS ウイルス時期と COVID-19 の感染が拡大する時期における『人民日報』の看護師をめぐる言説を検討してきた。二つの時期の報道で共通していることは看護師の献身的、利他主義的な言説が圧倒的に多く、コロナ禍における長時間労働、感染リスク、家族関係に関する欲求、不満、要望などが見当たらない。看護師たちが抱える苦痛、悩み、問題の全てが「国に献身する証と栄誉」に還元され、肝心な問題点やそれに対する解決策が見えにくくなるようになったと思われる。それらの看護師イメージが共通しているところは私益、不満、欲求がまったくない、どんな困難でも自分で乗り越えられる極端な利他主義と自己犠牲の精神である。どんな困難であっても乗り越えられる鉄人のような看護師像を構築することは看護師たちが抱える切実な問題を隠蔽し、看護師たちが自分の欲求を表すことを難しくし、社会に助けを求める道を塞ぐ恐れがあり、看護師たちの主体性もだんだん見えにくくなる恐れがある。

新型肺炎 SARS ウイルス時期と比べ、COVID-19 感染拡大期においては、男性看護師に対する報道が増加し、そして報道では男性看護師の性別に対して強調する傾向があるものの、男性看護師に関する報道と女性看護師に関する報道の間には歴然とした差がある。さらに、報道の重心は経験に富むリーダー看護師や年長の看護師から、積極的な若い世代に移り、看護師の政治的身分という属性より、個人的な情報（例えば家族状況、婚姻状況）に対する関心が高まった。また、ジェンダーの視角から考えると、女性看護師と比べ、男性看護師については、肉体的な労働に勤しむことがより強調される点は指摘できる。また、女性看護師に対して、外見的な特徴を表す言葉が多くあるものの、男性看護師に対する外見上の描写は見当たらない。

そして、グローバリゼーション、市場化、消費主義の進展と全体主義記憶の希薄化により、新しい世代に対する全体主義精神の喚起と社会統合は喫緊の課題となり、COVID-19 時期の看護師に対する「断髪行為」の報道、社会主義時代言説の利用、集合記憶とのリンクといった報道のテクニックからはその意図が見られる。

女性看護師に対する報道の特徴を浮き彫りにするために、本稿は「中国特設主義女性性」というコンセプトの適用を試みる。ここでいう「中国特設主義」は中国現在の制度そのものを指すものではない。それは、中国の伝統社会、社会主義時代、ポスト社会主義時代、それぞれの歴史段階から継承されてきた女性性の総和を捉えるための抽象的な概念である。「中国特設主義女性性」というのは、中国が伝統社会から現在まで独特な歴史を歩んできた過程の中で、蓄積されてきた女性性の集合体のことである。中国社会

は儒教文化に補強される「封建的」家父長制社会から、社会主義改造によって作り上げられた社会主義社会を経て、市場経済を導入し、グローバル経済に包摂されつつある社会に到達している。このような歴史的な過程に蓄積されてきた様々な女性性は並存しており、国営メディアの中の看護師像に巧みに組み込まれて、女性看護師の献身が最大限に要求されている。例えば、看護師たちは、社会主義時代の献身的、主動的な資質が最大限に表現され、その同時に、家族に対して後ろめたさを感じ、涙を流す弱い一面も呈示される。医療現場で鉄のような強い意志が強調される一方で、患者の前では「娘のような」「母のような」振る舞いが描かれている。また、社会主義時代の「舍小家，為大家」の言説が活用され、家族が看護師を支援し、看護師が国に献身するという構図となっている。もう一方で、女性が多数派である看護職は感染症流行期という特殊な時期において社会的な注目を集め、それによって社会的な地位も高まるため、家庭内のジェンダー規範に新たな可能性をもたらした。つまり、感染症流行期における「舍小家，為大家」の言説は「男は外、女は内」といったジェンダー役割規範を解体し、すべての叙述を「公と私」の二項対立論に組み込み、家内領域＝女性という社会通念を覆す可能性を提供した。

最後は、なぜ湖北省の支援に派遣する女性看護師たちが丸刈りにされた報道は大きな波紋を及んだのかという問題に戻る。社会主義時代と違い、当代中国社会の美意識は国の宣伝や社会主義イデオロギーによって決められるものではなく、情報テクノロジーの発展やイメージの商品化とともに、様々な断片的な情報源から発信される。そして新しい世代はこれらの情報を利用し、自主的に自分のアイデンティティを作り上げていく、彼女たちからみると、「断髪行為」はすでに自分を解放する、進歩的な意味を失い、逆に、自分の理想的な個人像を放棄すること、個人の主体性を侵すこととして考えられがちである。このような状況では、社会への献身と個人としてのアイデンティティの完全な放棄という二つの次元にある命題を同一視することは問題がある。感染症流行期における看護師についての報道を通して、新しい時代で、社会への奉獻と個人への尊重のバランス、それにメディアにおける女性性の呈示に対する再考が促される。

付記

本論文は中国国家留学基金管理委員会の助成を受けたものである。

参考文献

- 陳飛・張輝, 2011, 「男护士的可持续发展」『中华现代护理学杂志』8 (13): 1332-3.
 Finnane, Antonia, 1996, "What should Chinese Women Wear? A National Problem," *Modern China*, 22

(2): 99-131.

- 杜芳琴, 2002, 「在共性与差异中发展亚洲妇女学」『妇女研究论丛』1: 28-65.
- 谈静怡・姜全保, 2020, 「中国女性初婚模式变动趋势研究」『人口学刊』2: 17-28.
- 風笑天, 1992, 「变迁中的女性形象: 对《中国妇女》杂志的内容分析」『社会』7: 13-8.
- 高焕静, 2014, 「主流媒体中“榜样女性”形象的呈现与变迁: 《人民日报》(1960-2013)」『云南民族大学学报(哲学社会科学版)』31 (6): 139-44.
- 胡淑玲, 2016, 「职业的性别差异与性别隔离: 以男护士为例」浙江師範大学 2016 年度修士論文.
- 金一虹, 2006, 「“铁姑娘”再思考: 中国文化大革命期间的社会性别与劳动」『社会学研究』1: 169-93.
- 柳迪善, 2012, 「半个世纪的生死轮回: 新中国银幕上的女性身体」『北京电影学院学报』2012 (2): 2-5.
- 路璐・北池正・池崎澄江, 2019, 「中国の中堅看護師における専門職的自律性と看護研究活動との関連」『日本看護研究学会雑誌』42 (5): 871-9.
- 馬冬玲, 2018, 「护士形象的再现: 对《人民日报》1949 年以来文本的分析」『山东女子学院学报』4: 65-72.
- 牧陽一・松浦恆雄・川田進, 2000, 『中国のプロパガンダ芸術』岩波書店.
- 聶焱・王晓燕, 2019, 「变迁中的女性形象再探: 基于《中国妇女》杂志(1950~2015)的内容分析」『中国研究』2: 133-55.
- 任志安・林国荣, 2000, 「大共同体? 小共同体?: 评秦晖的“从大共同体本位走向市民社会」『社会学研究』2: 76-85.
- Vivien Burr, 2015, *Socialism Constructionism*, London: Routledge. (田中一彦・大橋靖史訳, 2018, 『ソーシャル・コンストラクショニズム』川島書店.)
- 宋健・張婧雯, 2017, 「孩次、生育时间与生育水平: 基于中日韩妇女平均生育年龄变动与差异的机制研究」『人口学刊』3: 3-14.
- 呉小英, 2016, 「“去家庭化”还是“家庭化”: 家庭论证背后的“政治正确”」『河北学刊』36 (5): 172-8.
- 王海洲, 2016, 「新中国女性的国家认同构建(1949-1984): 基于女民兵宣传画的图像政治学分析」『学海』3: 70-82.
- 王蕾, 2018, 『媒介・权力・性别: 新中国女性媒介形象变迁与性别平等』上海交通大学出版社.
- 徐峰, 2015, 「剪发与革命: 苏区革命妇女的身体政治史研究: 以妇女独立团剃光头为例」『北京社会科学』2: 78-83.
- 姚霏・馬培, 2015, 「抗战宣传画中的女性形象研究」『妇女研究论丛』130: 41-9.
- 張娜, 2017, 「『人民日报』(2001-2015) 话语中的女性形象研究」『新闻界』3: 70-4.
- 中華人民共和国衛生部, 2005, 『中国衛生統計年鑑 2005』中国協和医科大学出版社.
- 中華人民共和国衛生部, 2010, 『中国衛生統計年鑑 2010』中国協和医科大学出版社.
- 中華人民共和国衛生部, 2011, 『中国衛生統計年鑑 2011』中国協和医科大学出版社.
- 中華人民共和国衛生部, 2012, 『中国衛生統計年鑑 2012』中国協和医科大学出版社.
- 中華人民共和国衛生部, 2013, 『中国衛生統計年鑑 2013』中国協和医科大学出版社.
- 中華人民共和国衛生部, 2014, 『中国衛生統計年鑑 2014』中国協和医科大学出版社.
- 中華人民共和国衛生部, 2015, 『中国衛生統計年鑑 2015』中国協和医科大学出版社.
- 中華人民共和国衛生部, 2016, 『中国衛生統計年鑑 2016』中国協和医科大学出版社.
- 中華人民共和国衛生部, 2017, 『中国衛生統計年鑑 2017』中国協和医科大学出版社.
- 中華人民共和国衛生部, 2018, 『中国衛生統計年鑑 2018』中国協和医科大学出版社.
- 中華人民共和国衛生部, 2019, 『中国衛生統計年鑑 2019』中国協和医科大学出版社.

(りゅう こうう・博士後期課程)